



2015年度 学校案内

日本農業経営大学校 <http://jaiam.afj.or.jp/>

お問い合わせ先

一般社団法人アグリフューチャージャパン(日本農業経営大学校運営法人)

〒108-0075 東京都港区港南2丁目10番13号 農林中央金庫品川研修センター5階 TEL:03-5781-3750 admission@afj.or.jp



日本農業経営大学校

Japan Institute of Agricultural Management

日本の農業を切り拓く、農業経営者へ

あなたの未来。農業の未来。 日本の未来がここにある。

農業に期待される役割は、ますます高まっています。
誰もが安心して食べることのできる、安全で美味しい食を守ること。
地域経済、地域社会に活力を与えること。
今こそ、農業経営者が新しい価値を創造していく時代です。

日本農業経営大学校は、熱意と志を持ったあなたに
一流の農業経営者、地域農業のリーダーへと育ててもらいたい。
そのために、様々な工夫をこらした教育を提供します。

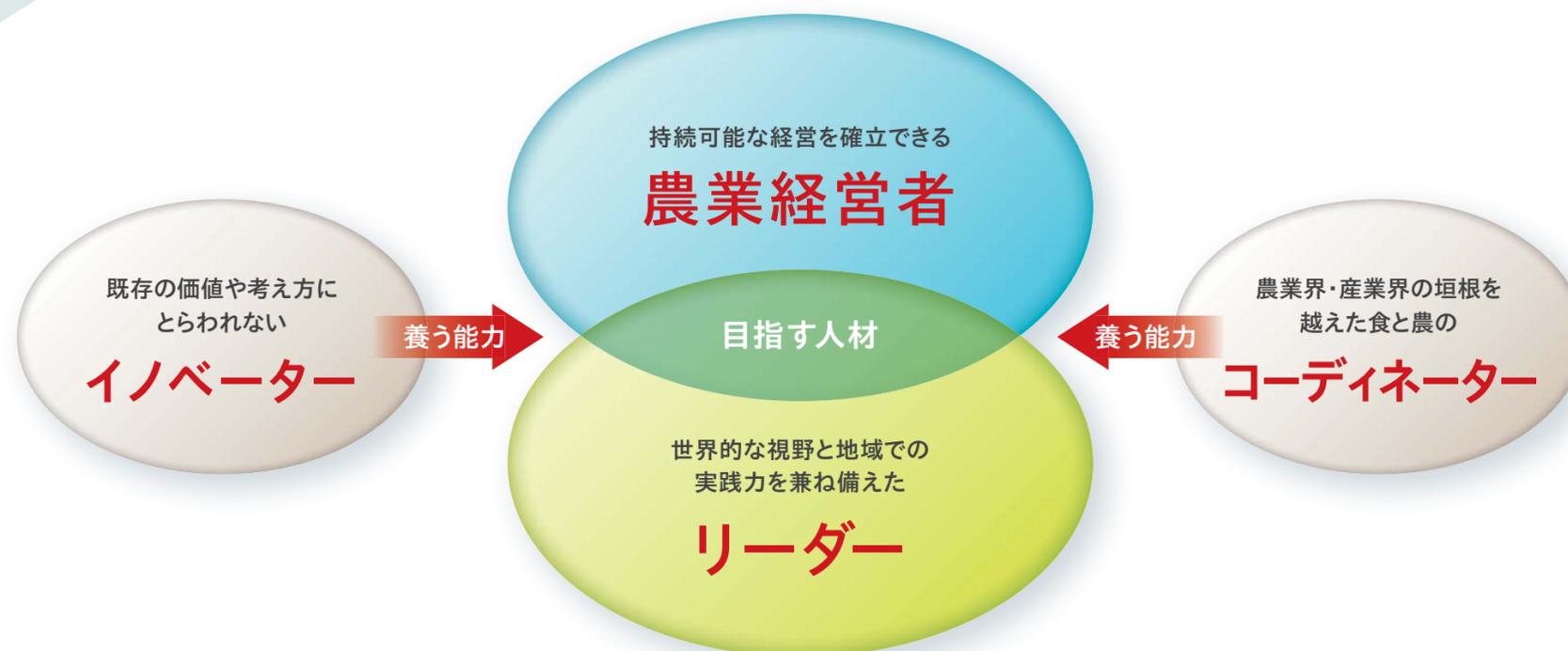
あなたが一歩踏み出すことで、日本の農業は可能性を広げる。
日本の未来は、あなたと共に育つのです。

日本農業経営大学校 概要

- 《開校》 2013年4月
- 《校舎立地》 東京・品川 (JR品川駅徒歩12分)
- 《定員》 20名/学年
- 《全寮制》 学生寮最寄駅「JR南武線、武蔵中原駅」(寮から校舎まで約50分)
- 《運営母体》 一般社団法人アグリフューチャージャパン
- 《校長》 岸 康彦
- 《教育期間》 2年(講義・演習+現地実習)
- 《募集対象》 未来を切り拓く農業経営を志す者 ※詳細はP31をご覧ください。

日本農業経営大学校が目指す人材像

ますます広がる農業の可能性に対応しうる、多様な個性を育みます。
農業経営者、そして地域農業のリーダーへの成長を目指し、様々な能力を養います。



- 在学中に、学生自らが経営の将来ビジョン及び到達目標を定め、さらに卒業後は、それぞれの現場で不断の実践を重ねることにより、目指す人材像の実現を目指します。
- 本校では、在学中のみならず卒業後も、継続的な学習の機会を提供することにより、目指す人材像への到達を支援します。

学生の皆さんへメッセージ

農業を先導する人材が生まれる場所へ。日本農業経営大学校が、あなたに望むこと。



理事長 浦野 光人

農業界、産業界がスクラム。 オールジャパンの体制で人材育成に取り組む。

日本の農業を取り巻く環境は、「攻めの農林水産業」を柱とした「農業・農村所得倍増」目標を掲げた旗印のもと、各種施策を総動員して成長に向けた準備に突き進んでいるところです。

このような状況のなかで、日本の農業を成長産業として大きく飛躍させるには、農業者自らが「生産者」から「経営者」へと意識を転換させ、時代の変化に柔軟に対応した経営を行う必要があります。

そこで、一般社団法人アグリフューチャー・ジャパンは昨年4月に日本農業経営大学校を設立し、本年いよいよ新校舎で2学年体制をスタートしました。

本校では、農業界、産業界がバックアップするオールジャパンの体制で、次世代の農業経営者のエキスパートを育成します。

農業の活性化は地域経済に好影響をもたらす、また国土や自然の保全にも繋がるものとして、時代に即した今後の成長に大きな期待が寄せられています。

このような農業に大きな夢を持ち、農業に新たな価値を生み出すことのできる力強い人材が不可欠です。

本校で学ぶ学生が行動力にあふれた農業経営者として成長し、地域経済や産業界を牽引するリーダーとなることを期待しています。

グローバル化時代を切り拓く力を身に付け、 日本農業の明日を担う人材を育成する。

グローバル化の波が押し寄せる中で日本農業の未来を切り拓くために、いま求められているのは、何よりも「人」です。

日本農業経営大学校では、1学年定員20名という少数精鋭の授業を通じて、次世代を担う農業経営者であり、同時に地域農業のリーダーとしても活躍できる人材を育成します。

学界、農業界、産業界などから選ばれた多彩な講師陣が、学生の一人ひとりに向き合い、「経営力」「農業力」「社会力」「人間力」という「四つの力」を鍛えます。

経営者に欠かせないグローバルな視点や事業の構想力、リーダーとして信頼を勝ち得る先進性と人間性、さらに自然を相手に取り組む農業という仕事の奥深さや情熱を伝えます。

次世代の農業経営者は、揺るぎない経営を確立するだけでなく、世界的な視野で多様なネットワークを構築し、しかも地域に足を下ろして実践することを求められます。このため、本校は、農業関係者にとどまらず、消費者や企業とも連携し、広く社会に開かれた教育機関として活動を展開します。

農業は、明確な目標を持って経営に当たれば、さまざまな可能性が広がる魅力的な産業です。

あなたも本校で学び、日本農業の新たな1ページを開く経営者になってください。

校長 岸 康彦



各界からのメッセージ

オールジャパンの支援体制で、日本農業経営大学校を応援。各界のトップクラスの方々からメッセージをいただきました。



金子 美登 さま

特定非営利活動法人 全国有機農業推進協議会理事長、
一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン代表理事副理事長

人類史の中の大転換の時代。その舞台は美しい田園が織りなす農が間違いなく主役です。そこに、いのち巡る農業・農村という文化を土台に、「むら」と「まち」とが新たなコミュニティ、新たな共同体の復権を目指す時。そして、食・エネルギー・福祉までを自給・自立・循環する時。その自給の石を各自各地で積み直し、再生・再建する時。美しい農の世紀を担い、価値ある時を刻む、志高い若人よ、来たれ。

プロフィール 1971年 農林水産省農業者大学校卒業後、同年に就農。1999年 小川町議会議員に初当選し、2006年 特定非営利活動法人 全国有機農業推進協議会理事長に就任。2012年 一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン代表理事副理事長に就任し、現在に至る。



茂木 友三郎 さま

キッコーマン株式会社 取締役名誉会長

日本農業経営大学校に入学される方には、是非夢と志を持って頂きたい。夢と志は、様々な場面で困難に直面した際に、これ乗り越える力をもたらしてくれます。また、リーダーになるためには、人生の中で、他のことを犠牲にしても懸命に勉強しなくてはならない時期があります。本校の学生の皆さんには自分の将来に必要な分野を自学自習することを含めて懸命に勉強し、日本の農業経営の分野をリードする存在になってほしい。

プロフィール 1935年生まれ千葉県出身。1958年慶應義塾大学法学部卒業後、キッコーマン株式会社入社。1961年米国コロンビア大学経営大学院(MBA)卒業。1995年キッコーマン株式会社 代表取締役社長CEOに就任。2004年同社代表取締役会長CEOを経て2011年同社取締役名誉会長 取締役会議長に就任し現在に至る。公益社団法人経済同友会終身幹事、公益財団法人日本生産性本部会長。

三森 かおり さま

有限会社 ぶどうばたけ 取締役

昨年誕生し今年度新校舎を設立した日本農業経営大学校。ますます素晴らしい環境の中、未来の農業を支える人を育てる場所として進化しました。激動の日本 世界情勢も激変する中、日本の農業者が学ぶべき『経営』に特化し高い可能性をもとめ精鋭の学生達が日本国中から集結し、学ぶ寮生活の2年間。環境によって人は変わる。本校はまさに時代と共に進化する大学校と期待します。今年は初めて卒業生が社会にできる真価の年。失敗を恐れず果敢に挑戦してください。大きな可能性を秘めた日本の農業・農業界の期待の大学校 羽ばたけ世界に

プロフィール 山梨県出身。実家も専業農家の長子長女。短大卒業後、保育士を4年務めて1989年結婚を機に就農。農林水産省 食料・農業・農村政策審議会委員、山梨県総合計画審議会委員を経て、日本農業法人協会理事(現職)、やまと凛々アグリネット会長(現職)。



和田 寿昭 さま

日本生活協同組合連合会 専務理事

日本農業経営大学校での学習は、農業技術の習得に加え、鋭い経営感覚や経営のビジョンを学ぶ機会となるでしょう。生協は、食を中心に消費者に安心・安全な商品の提供とそうした事業を通じて地域社会づくりを進めています。農業生産者と消費者がつながり、生産者や産地を“見える化”することで、より食への安心・信頼が高まります。消費者と協同・連携した農業経営者が増えていくことを期待しています。

プロフィール 1960年岐阜県生まれ。1984年新潟大学を卒業した後、東京大学消費生活協同組合に入協。東大生協専務理事を経て、2003年12月より全国大学生協同組合連合会専務理事を8年間勤め、2011年9月日本生活協同組合連合会に移動し、2013年6月より現職(運営・組織分野を担当)



江戸 龍太郎 さま

エスピー食品株式会社 会長

日本の農業技術は世界のトップクラスと認識しています。また、日本の食品加工・製造・配送技術もまた、同様に一流と自負しています。これらの技術を日本そして世界の為に役立てるには、「志の高い人材」が必要です。日本農業経営大学校は自律性のある志の高い農業経営者を育てる教育機関です。当校での学びを通じて、自然環境保全を心がけると共に、一人ひとりの個性を生かしたチームワーク創りで持続性ある地域社会作りをリードし、将来の日本の農業界を牽引する「若き農業経営者」としてご活躍いただくことを強く期待しています。

プロフィール 1952年香川県生まれ。1976年早稲田大学理工学部卒業後、エスピー食品株式会社入社。2005年エスピー食品株式会社 代表取締役社長に就任。2011年同社取締役会長に就任し現在に至る。



河野 良雄 さま

農林中央金庫 代表理事理事長

農林中央金庫では、次世代を担う農業者の育成を本来業務の一つと捉えており、その中で、本校の教育活動を、メインスポンサーの立場から全面的にバックアップしています。本校では、他では得られない様々な体験ができ、幅広いネットワークを築くことができます。さらに、全寮制の共同生活で生涯の仲間も得られます。

是非一步を踏み出し、地域農業のリーダーを目指して下さい。私たちは、在学中のみならず就農後も見据え、皆さんの農業経営の成功に向けサポートしていきます。

プロフィール 1972年3月に京都大学農学部卒業後、同年4月に農林中央金庫に入庫。宮崎支店長や榎農中信託銀行への出向等にて様々な業務に携わり、常務理事・専務理事・代表理事副理事長を経たうえで、2009年4月より現職。

本校で育む4つの力

農業経営の理論と実践力を育む教育システムが、本校にはあります。

基本方針

時代が大きく変化する中、未来を担う農業者には「経営力」「農業力」「社会力」およびそれらの根幹をなす「人間力」がますます求められてきます。

本校は、これまでにない新たな教育理念やカリキュラムを定め、これら4つの力を涵養し、グローバル化時代を切り拓く農業経営者教育の実践を目指します。

カリキュラムの編成方針

本質的な内容の確実な定着を図るとともに、時代の変化および学生のニーズに適切に対応したカリキュラムを編成する。

- ① カリキュラムは、講義、現地実習、ゼミ、総合的学習、卒業研究および特別講義等で構成する。
- ② 講義の領域は、「経営力」「農業力」「社会力」および「人間力」で構成し、各領域の下に学群を設け、各学群の下に科目を設ける。

●卒業研究

卒業後の事業計画の策定や、新たなビジネス企画を構想する教育活動。

●ゼミ・総合的学習

教科の枠を超え、課題解決能力の育成を目指す、創意工夫を生かした教育活動。

●専任の指導担任を配置

学生自らが課題を発見し、解決できる資質や能力を育てる。自己の在り方、生き方を考えることができるよう支援する。

●特別活動

体育的活動、文化的活動等の集団活動を通じ、幅広い経験を積みながら、自主的な態度を育てるとともに、自己の在り方・生き方を考える能力を養う。

●全寮生活

2年間の集団生活を通じ、経営者に求められる、自主性・自律性を涵養するとともに、多様な価値観を学ぶ。

●AFJ会員とのネットワーク

会員企業や農業経営者等による様々な学びの場を提供。

(1) 講義・演習

農業界、産業界の経営者、実務家および研究者等を講師として招聘し、講義と演習を有機的に結合させた授業を実施する。講義では、幅広い考え方を示しつつ、多様な考え方や方法を学び、学生主体によるディスカッション等とおして、自ら進むべき道を見定めることができるよう配慮する。演習は、ケースメソッド(事例研究)を中心として、自ら課題を発見し解決できる能力を育む。

(2) 現地実習(農業実習4ヵ月間・企業実習3ヵ月間)

先進的農業経営や食品・流通企業等の現場での体験を通じ、各事業のコア・コンピタンス(強み)を理解し、自らの農業経営につなげる。

(3) 特別講義(週1~2日×2時間程度)

学生のニーズや時代の潮流を見定めつつ、様々な知見を有する講師による特別講義およびディスカッションを教育の一環として行い、その一部は、広く一般に公開する。



経営力

経営者に求められる知識、
技術に裏付けられた
判断力および決断力。

社会力

農業経営を取巻く社会への
適応力及び変革力。



人間力

倫理観、哲学、使命感等の
農業経営者としての
基盤となる資質・能力。



農業力

農業者に求められる
知識、技術に裏付けられた、
地域農業の実践力。



2年間のスケジュール

農業と向き合い、農業経営の本質を見極める。学びを実践に生かす仕組みがあります。

1年次

2年次



※自家が農業を営む者は原則3ヵ月以上、それ以外の者は原則6ヵ月以上。
高等学校卒業見込み者は1年程度の事前農業実習が必須。詳しくはP31をご覧ください。

※2014年4月現在で予定している教育計画です。

卒業後

農業経営への各種サポート

フォローアップ研修(定期的開催)
海外研修

授業紹介

経営力 24単位

経営者に求められる本質的な知識や技法を学び、経営者としての判断、決断ができる 資質、能力、態度を育む。

経営力 で学べること

経営者に求められる考え方や知識を学び、意思決定ができる資質、能力を身につけます。
経営戦略、マーケティングから、農業簿記・会計に至るまで、多岐にわたる講義が展開されます。
さらに、ケース・スタディやディスカッションの機会も取り入れられ、実践的な内容となっています。

学群	科目	主な講師陣	概要
経営力 入門	農業者のための 経営学入門 【1年次前期】	上原 征彦 (明治大学専門職大学院グローバル・ ビジネス研究科教授) 南石 晃明(九州大学大学院農学研究院教授) 澤浦 彰治((株)野菜くらぶ代表取締役)	経営力の領域の科目を履修していく上でのオリエンテーション的な科目 であり、資本主義の精神と論理を学び、経営者としての幅広い思考力を 身に付けることを目的とする。また、実務家の講義を通じて実践的な 経営思想についても学ぶ。
	マーケティング入門 【1年次前期】	松尾 和典 (日本農業経営大学校専任講師) 折笠 俊輔 (公財)流通経済研究所主任研究員)	マーケティングの定義や考え方を中心に、基本的な知識を確認する。 様々なケースを中心にマーケティングの成功要因を自ら考えることに 重点を置く。また、企業でマーケティングに携わっている実務家を招聘し、 実践的な話を聴く機会を設ける。
	農業簿記 【1年次後期】	野島 一彦 (学校法人大原学園会計士講座本部教務部課長) 西山 由美子 (税理士、にしまやゆみこ税理士事務所所長)	農業経営に必要な日常の帳簿記帳から決算までの会計・税務に関する 知識を習得し、財務諸表を農業経営に生かす基礎知識を身につける。 農業簿記検定の教科書・問題集を使用して、簿記の基本から財務諸表 の作成まで、演習を多く取り入れながら学習する。
経営戦略	農業・食の経営戦略 【1年次前期・後期】	上原 征彦 (明治大学専門職大学院グローバル・ ビジネス研究科教授)	農業経営における競争優位を見出し、戦略を立案し、意思決定をする ための力、それを実行に結びつける力を身に付けることを目的とする。ケース メソッドを活用するとともに、優れた農業経営者の成功体験を聞き、彼ら とディスカッションを深めつつ、より現実的な問題にアプローチしていく。
	農業経営と 情報マネジメント 【1年次前期】	南石 晃明 (九州大学大学院農学研究院教授) ほか	農業経営に必要な情報活用につき、理論と応用を具体的事例を通じて 学ぶ。農業生産管理から経営判断まで幅広い意思決定領域を対象に、 情報の収集・加工・活用の理論と方法について理解を深め、農業経営に おける情報マネジメント能力を身に付けることを目的とする。各分野の 実務家をゲスト講師とすると共に、演習も取り入れた授業を行う。
	農業経営学 【1年次後期】	南石 晃明 (九州大学大学院農学研究院教授) ほか	国際的な視野に立つて農業経営管理の理論と方法について学ぶ。多様な 農業経営の発展過程とその経営管理について、理論および方法の両面 から理解すると共に、実践的な農業経営管理手法を身に付けることを 目的とする。農業経営者をゲスト講師とすると共に、演習も取り入れた 授業を行う。
	情報戦略の 理論と実践 【1年次後期】	高橋 一貢 (慶應義塾大学総合政策学部講師) 松尾 和典 (日本農業経営大学校専任講師)	経営・マーケティング活動における情報戦略を幅広く学習し、イノベーション の実現、顧客との新たなリレーションの構築、農産物の販売手法の拡充 等、情報をいかに戦略的に活用していくかを実践的に学習することを目的 とする。ケーススタディや実践者からの講演等を取り入れた授業を行う。
	アントレプレナー論 【2年次後期】	(調整中)	アントレプレナーの考え方・取り組み方について学ぶ。特に創業者としての 経営理念、経営指針、経営戦略の組み立てや、意思決定、人材採用・育成 について、経営の実践者を通じて論じていく。また、ゲスト講師と学生、学生 間でのディスカッション時間を積極的に設け、学びを深める。
	農業・食の経営組織 【2年次後期】	納口 りり子 (筑波大学大学院生命環境科学研究所教授) ほか	農業経営を人的組織として把握する必要性、従業員の採用・研修や経営 内の経営情報の集積、後継者の育成方法などについて論じる。中小企業 で採用されている人的資源管理の視点やネットワーク型の経営組織に ついて考察する。授業は、農業法人の経営者を含む実務者による講演も 想定している。
	消費者の心理と行動 【1年次前期】	神谷 渉 (公財)流通経済研究所主任研究員) 折笠 俊輔 (公財)流通経済研究所主任研究員)	消費者が買物や、所有、商品の使用といった消費活動を行う際に、どの ような要因が存在するのか、それらはどのように影響し合うのか、それら によってどのような結果が生じるのかについて学ぶ。手法について講義後、 簡単な実習を通じて基礎の習得を目指す。
販売・ マーケティング	消費者の心理と行動 【1年次前期】	神谷 渉 (公財)流通経済研究所主任研究員) 折笠 俊輔 (公財)流通経済研究所主任研究員)	消費者が買物や、所有、商品の使用といった消費活動を行う際に、どの ような要因が存在するのか、それらはどのように影響し合うのか、それら によってどのような結果が生じるのかについて学ぶ。手法について講義後、 簡単な実習を通じて基礎の習得を目指す。

学群	科目	主な講師陣	概要
販売・ マーケティング	食農連携 マーケティング 【1年次前期・後期】	三村 優美子 (青山学院大学経営学部教授) ほか	自然景観、食文化、そして農業との一体化を目指すフランスのボルドー地方 に代表されるような、地域社会・農業の価値を活かす新しいマーケティング の枠組みを理解し身に付けることを目的とする。基本的な考え方から、実践 に至るまで、現場視察や事例研究、実務家による講演と討議を通じて学ぶ。
	食品流通論 【1年次後期】	大塚 明 (前 日本スーパーマーケット協会専務理事) 高橋 佳生 (公財)流通経済研究所常務理事)	流通の定義・概念、社会的な役割・機能について、具体的な事例を交えて 基本を学ぶ。さらに、流通チャネルの変革や、国際化、法規制といったトレンド に触れる。また、農業・食品産業にかかわる流通情勢についての講義も 実施することで、農業経営者として実務で活用できる知識の習得を目指す。
会計・ マネジメント	農業経営の 会計・ファイナンス 【2年次前期】	森 剛一 (税理士、アグリビジネス・ ソリューションズ(株)代表取締役)	農業経営を数字にて把握することで、利害関係者に的確に説明できる能力を 磨く。また、経営計画を策定するスキル、的確な投資判断や資金調達をする ための手法を身に付けることを目的とする。授業は演習方式により、経営の課題 を受講生間で討議することで、財務諸表の見方や経営分析の手法を学ぶ。
	農業経営のリスク管理と 社会的責任 【2年次前期】	池戸 重信(元宮城大学副学長) 武田 泰明 (特定非営利活動法人日本GAP協会専務理事) 久保利 英明 (弁護士、日比谷パーク法律事務所代表)	農業は2次、3次産業以上に多様な経営リスクにさらされる。農業におい ても今後、リスク管理が経営の命運を左右する可能性が拡大する。この授業 では主要なリスクとそれへの対処方法を習得するとともに、コンプライアンス (法令遵守)とCSR(企業の社会的責任)について学ぶことを目的とする。
	経営者の法律 【2年次後期】	須藤 英章(弁護士、東京富士法律事務所代表) 足立 学(弁護士、東京富士法律事務所) 須賀 一也 (公認会計士、須賀公認会計士事務所代表)	農業経営に必要な法律の知識について、実際の事例をもとにしたケース メソッドを通じて学習する。本講義の目的は、法律をただ暗記すること ではなく、法律の考え方や捉え方、その適用・利用を的確に行うことが できる能力を養うことにある。
事業創造・ イノベーション	ナレッジマネジメント 【1年次後期】	梅本 勝博 (北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科教授)	組織経営における知のマネジメントの理論的枠組みと実践方法について 理解する。経営を知的創造・共有・活用のプロセスとして捉え、その理論的 モデルと実践戦略・手法、情報技術の活用、リーダーの役割などを論じる。
	サービスマネジメント 【2年次前期】	梅本 勝博 (北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科教授)	サービスの本質と重要性を理解し、サービスイノベーションを自分で実現 するために必要な概念と方法論を学ぶ。授業では、サービスの本質、サービス マーケティング、サービスイノベーション、農業におけるサービス事業の実例を 学んだうえで、自分で将来、実現したいサービスイノベーションをデザインする。
	イノベーション実践論 【2年次前期】	丹羽 清(東京大学名誉教授)	イノベーション(新軌道への変更、あるいは、創造的破壊)とは何か、そして、 なぜそれが重要かという基本的な考え方を理解し、その上で、イノベー ション実現上の主要な課題とその解決の方法を習得して、受講生がイノベー ション実現に向けて挑戦できる能力と意欲を向上させることを目的とする。
	農業経営改革実践論 【2年次後期】	近藤 修司 (北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科客員教授)	農業経営を改革する視点で、改革実践力の高い人材を育成することを 狙いとする。特に、人間力と技術力を駆使して、価値の創造をプロデュース できる未来創造型の改革人材を育成する。具体的には、4画面思考法を 体得して、自分の改革実践提案書を構築して実践する。



農業の未来を拓くには、経営力が必要です。

上原 征彦 明治大学専門職大学院教授

これからの農業に欠かせないのが経営力です。経営力を学ぶことで、新たな農業に挑戦できたり、
地域を活性化したり、食の可能性を広げたり、未来が希望であふれます。そのためにも、農業を経営
していくのに必要な知識、経営者に求められる判断力と決断力を身に付けていきましょう。

授業紹介



農業力 12単位

農業者に求められる本質的な知識を身に付けた上で、地域農業を牽引し、持続・発展させうる農業の実践力に関わる資質、能力、態度を育む。

農業力 で学べること

農業者に求められる本質的な知識を身に付け、農業の実践力に関わる資質、能力、態度を養います。講義では農業生産の基礎として作物、野菜、果樹、花き、畜産といった作物ごとに知識を身に付けるとともに資源、環境、エネルギー、生物多様性等の問題を取り上げ、環境と調和した持続的な農業生産のあり方について学びます。また、日本と世界の食料・農業の政策、および政策の枠組みを形成している法律を学び、農業経営者に必要な鑑識眼を養います。

学群	科目	主な講師陣	概要
農業力入門	日本農業論 【1年次前期】	津野 幸人(鳥取大学名誉教授)	現代の日本農業は、工業化社会の進展に伴う農業の担い手の減少、零細な営農規模、食料自給の破綻、環境問題等の諸課題を抱えている。この情勢下での農業の生き残り戦略と食料自給率の向上、環境修復についての基本的視点を学ぶ。
	生物と農業生産Ⅰ 【1年次前期】	塩谷 哲夫(東京農工大学名誉教授) 平澤 正(東京農工大学大学院農学研究科教授) 北条 雅章(千葉大学環境健康フィールド科学センター准教授)	農業は、生物の営みを利用して人間に有用な生産物を得る生命産業である。農業経営者は、工業生産とは異なる農業生産の特質を正しく理解し、植物や動物を科学の視点で観察する目が求められる。このため、植物・動物を健全に栽培・飼育し、生産能力を高めるために必要となる基本的・本質的な知識を身に付ける。生物と農業生産Ⅰでは、農業生産の概論と作物及び野菜について学び、生物と農業生産Ⅱでは、畜産、果樹及び花きについて学ぶ。
生物と農業	生物と農業生産Ⅱ 【1年次後期】	小林 信一(日本大学生物資源科学部教授) 間苧谷 徹(元農林水産省果樹試験場長) 渡辺 均(千葉大学環境健康フィールド科学センター准教授)	
	資源・環境と農業生産Ⅰ 【1年次後期】	陽捷行((公財)農業・環境・健康研究所 農業大学校長) 荘林 幹太郎(学習院女子大学国際文化交流学部教授) 金子 美登(NPO法人全国有機農業推進協議会理事長、霜里農場代表) 石郷岡 康史((独)農業環境技術研究所主任研究員) 根本 久(保全生物防除研究事務所代表) 宇根 豊(元NPO法人農と自然の研究所代表理事)	地球の水・大気・土壌等の環境資源には限りがある。世界の人口を養うためには、農業が持つ物質循環機能を活かし、環境と調和した農業生産を持続的に行わなければ人類の未来はこころもとない。このため、環境資源、エネルギー等の問題を理解して農業経営を営む必要性を学ぶ。資源・環境と農業生産Ⅰでは、農業と資源・環境との関係、大気環境、植物防疫、生物多様性等について学び、資源・環境と農業生産Ⅱでは、土壌環境、堆肥と土づくり、農業と資源・エネルギーについて学ぶとともに、有機農業の実践者等から様々な取り組みの実践例を学ぶ。
資源・環境と農業	資源・環境と農業生産Ⅱ 【2年次前期・後期】	陽捷行((公財)農業・環境・健康研究所 農業大学校長) 小川 吉雄(鯉淵学園農業栄養専門学校教授) 橋本 力男(堆肥・育土研究所代表) 業師堂 謙一((独)農業・食品産業技術総合研究機構 バイオマス研究統括コーディネータ) 小林 久(茨城大学農学部教授) 菅野 芳秀(農業者、レインボープラン推進協議会相談役) 小口 広太(日本農業経営大学専任講師) 折戸 えとな(東京大学大学院) 相原 成行(有機農業実践者、相原農場代表) 萩原 紀行(有機農業実践者、のらくら農場代表) 金子 美登(NPO法人全国有機農業推進協議会理事長、霜里農場代表)	

学群	科目	主な講師陣	概要
食料・農業の政策と法律	日本の食料・農業政策 【1年次後期】	生源寺 眞一(名古屋大学大学院生命農学研究科教授) 安藤 光義(東京大学大学院生命科学研究所准教授) 江川 章(中央大学経済学部准教授) 内田 多喜生((株)農林中金総合研究所主席研究員) 長谷川 晃生((株)農林中金総合研究所主事研究員) 小針 美和((株)農林中金総合研究所主事研究員)	現代日本の食料政策と農業政策について、背景にある日本社会の構造変化や経済のグローバル化の流れを踏まえながら、基本的・包括的な知識を身につける。政策のあり方に関して建設的な提言にもつながるように、的確な鑑識眼を養う。
	世界の食料・農業政策 【2年次前期】	生源寺 眞一(名古屋大学大学院生命農学研究科教授) 市田 知子(明治大学農学部教授) 石井 圭一(東北大学大学院農学研究科准教授) 李哉泓(イ・ジェヒョン)(鹿児島大学農学部准教授) 和泉 真理((一社)JC総研客員研究員) 平澤 明彦((株)農林中金総合研究所主席研究員) 阮蔚(ルアン・ウェイ)((株)農林中金総合研究所主席研究員) 室屋 有宏((株)農林中金総合研究所主席研究員)	多くの先進国には農業保護政策という共通項があり、途上国にあっては農家が概して過酷な政策のもとにおかれる傾向がある。主要な先進国の食料・農業政策の骨格を学ぶとともに、成長著しいアジアの国々の政策の動向を把握する。
	食料・農業の法律 【2年次後期】	高木 賢(弁護士、元食糧庁長官) ほか	食料・農業に関する各分野の政策の枠組みを形成している食料・農業関係諸法律について、食料・農業に関する実態認識及びあるべき方向との関連の下に体系的に習得するとともに、食料・農業の法律に隣接する法領域についても学ぶ。



農業の日々の進化と変わらぬ本質を学び、農業経営に挑戦する実践力を培う。

生源寺 眞一 名古屋大学大学院生命農学研究科教授

現代の農業技術は時々刻々進化し、経営戦略の面でも農業の領域を超えた挑戦や提携が当たり前になっています。他方で、人間の生命と健康に欠かせない食料を生み出す営みとして、農業には時代を超越した存在価値があります。日進月歩の新しい姿と人類史上変わることのない本質。農業力の領域では、こんな農業の魅力を具体的に理解したうえで、農業経営者に求められる実践力を身につけていきます。

授業紹介



社会力 10単位

農業経営者に求められる農業経営環境や諸制度を中心に学び、環境に適応し、かつ環境を創造しうる資質、能力、態度を育む。

社会力 で学べること

フードシステム、食生活・食文化、食品産業の講義では、農業と深く結びついた食の現状を学びます。農村地域の活性化に関する講義は、講師も多彩で、学生の出身地域の話も多く聞くことができます。まさに今後農業、農村、食に携わる人間として必ず直面する課題が中心です。講義を受け、自分はそれらとどのように向き合っていくのかを考えることができます。

学群	科目	主な講師陣	概要
消費者・食生活・食文化	社会力入門	中嶋 康博 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授) 中嶋 晋作 (明治大学農学部専任講師)	これからの行く末を見通すために、食と農、それらを支える社会的枠組みの現状と課題を、フードシステム概念を通して学ぶ。食生活の変化、食をめぐる産業、社会的に必要とされる制度の実態と背景を経済学的視点に基づいて、理解して考察できる思考方法と専門知識を身に付けることを目的とする。
	食生活と食文化 【1年次後期】	武見 ゆかり (女子栄養大学栄養学部教授)	地域で生活する人々の多様な「食の営み」を、環境要因も含め構造的に整理し、生活の質(Quality of Life)の向上につながるような望ましい食生活やライフスタイルについて理解するとともに、国際的にも評価が高い日本の伝統的な食事パターンや食文化についての理解を深めることを目的とする。
	食品産業と農業 【2年次前期】	岸 康彦(日本農業経営大学校長) 河合 義雄((株)ニチレイフーズ顧問) 大塚 明((株)ヤオコー顧問) 加藤 一隆 (一社)日本フードサービス協会専務理事) 坂本 多旦(船方農場グループ代表) 前島 昭博((株)花の海代表取締役社長) ほか	食品産業は、本来的に農業と切っても切れない関係にある。グローバル化によって外国農産物の利用が増える一方で、国産農産物への期待も大きい。この授業では、食品産業の歴史と現状を知り、どうすれば日本農業との関係をより良いものにできるかを考える。
	消費者運動と食・農の パートナーシップ 【2年次前期】	林 薫平 (福島大学経済経営学類特任准教授) 内山 和夫 (日本生活協同組合連合会産直グループマネージャー) 阿南 久 (前 全国消費者団体連絡会事務局長) 山本 伸司 (パルシステム生活協同組合連合会理事長)	農業者の経営発展には、消費者との信頼関係の構築が不可欠になる。本講義では、消費者運動の歴史をたどり、今後の農業経営の発展のために必要な消費者との関係づくりについて考察する。消費者団体や生協の実践者のゲスト講演を交え、受講者で意見を出し合い、議論する。

学群	科目	主な講師陣	概要
農村地域の 活性化	農山村の再生戦略 【1年次前期・後期】	小田切 徳美(明治大学農学部教授) 荘林 幹太郎 (学習院女子大学国際文化交流学部教授) 筒井 一伸(鳥取大学地域学部准教授) 橋口 卓也(明治大学農学部准教授) 横平 龍宏 (名古屋経済大学経済学部准教授) 関司 直也 (法政大学現代福祉学部准教授) 神代 英昭(宇都宮大学農学部准教授) 山浦 陽一(大分大学経済学部准教授) 佐藤 真弓(明治大学農学部助教)	農山村をめぐる課題は、農業や産業・経済のみでなく多面的である。「生活」「資源」「コミュニティ」を含め、その総合的な状況の中で、地域の再生をいかに進めていくかを考えなくてはならない。政策のあり方や農業経営者として(あるいは集落の一員として)の振る舞い方を含め、自らの地域の内発的発展を実現する理論と実践(基準)を身に付けることを目的とする。
	協同組合論 【1年次後期】	小林 元 (一社)JC総研主任研究員) 石田 正昭 (三重大学大学院生物資源学研究所招聘教授) 北川 太一(福井県立大学経済学部教授) 松岡 公明((一社)JC総研理事)	協同組合は、歴史的に大きな役割を果たしてきたが、協同組合に対する社会の理解は必ずしも高いとはいえない。そこで本講義では、協同組合について、①「協同組合とは何か?」、②「協同組合の目的」、③「協同組合の課題」を学び、受講者自身が協同組合とどのように接していくか、主体的に考える力を身に付けることを目的とする。
	集落営農と JA出資型農業法人 【2年次前期】	小林 元 (一社)JC総研主任研究員) ほか	集落営農の取り組みの特徴とその意義を理解することを目的とする。集落営農の取り組みは地域の実態に合わせて多様な発展がみられることから、その地帯構成区分に注目して、さまざまな事例とそのリーダーたちの声を実際に聴くことを重視する。
	農山村の女性活動 【2年次前期】	安倍 澄子 (日本女子大学客員教授)	農業経営をとりまく変化に適応し、また、その変革に向けて農山村女性が取り組む活動状況や問題・課題を理解するとともに、女性活動が地域活性化に連動するための取り組み方や活用すべき諸制度を学び、地域社会の新たな動きを創りだす資質・能力を身に付けることを目的とする。
	地方行政との 連携・協働 【2年次後期】	地方自治体の首長経験者等(調整中)	地方自治体または民間が先導し、両者が力を合わせて推進してきた農業・農村活性化の多様な試みにつき、当事者の実践報告から学ぶ。そのことを通じて、これからの農業経営者が地域とどう関わるべきかを考える。講師には自治体の首長経験者等の幹部や事業の担当者、民間の推進者等を招聘する。



地域のイノベーションクリエイターとして

安倍 澄子 一般社団法人農山漁村女性・生活活動支援協会調査研究課長

これからの農業経営者には、地域農業のイノベーションを創る力が求められています。そのためには、地域資源(自然・農産物・景観・人材)を活かす方策・諸制度を学ぶ。フードシステムや他産業・異業種の状況を知る。消費者ニーズを知る。まさに多様化する社会の今を学ぶことを通じて、地域を支え・創造する「社会力」を身につけてください。

授業紹介



人間力 9単位

農業経営者に求められる倫理観、哲学、使命感を学び、それらを深化、統合、発展していく資質、能力、態度を育む。

人間力で学べること

リーダーとしての資質や、教養を身につけます。講師との対話や各自の発表、ディスカッションを中心に講義が進み、一見すると難しそうな内容も、自ら考える時間があるため、いつの間にか講義に集中し、自然と理解できます。

どの講義も、経営者・地域のリーダーとしての資質を育成し、農業経営者にとって必要なことは何かを考えさせられます。

学群	科目	主な講師陣	概要
人間力入門	経営者のための経済学 【1年次前期】	清水 徹朗 (株)農林中金総合研究所基礎研究部長 小野澤 康晴 (株)農林中金総合研究所調査第一部副部長	経営者としての人間力を高めるという観点から、経済学の基礎的な考え方を身につける。農業の独自性を踏まえ、一般経済の動向とともに、農業及び農業経営についても、可能な限り言及する。また、日本経済の現状把握力を身につけ、経済現象に対する問題意識を高める。
	経営者のための社会学 【1年次前期】	立川 雅司(茨城大学農学部教授) 原 珠里 (東京農業大学国際食料情報学部教授) 三浦 展 (社会デザイン研究者、 関カルチャースタディーズ研究所代表取締役)	経営者が生活する農村や都市は、経済的原理だけでは割り切れない慣習や社会的約束事に満ちている。経営者が理解しておくべき社会現象や背景にある社会動向を社会学的観点から解説し、経営者が身に付けるべき社会学的センスを磨く。
	経営者のための哲学 【1年次後期】	大平 浩二(明治学院大学経済学部教授)	次世代農業経営者としてわが国の農業を担うために必要な思考上の基盤を身につけ、経営者としての意思や哲学そして農業観を磨く。第一線で活躍する各界の経営者の経営思想・経営哲学に触れつつ、自らの農業経営のあり方を考える。
	経営者のための英語力 【1年次後期】	黒川 恵子(会議通訳)	農業経営に必要な情報がグローバルに行き来する現在、情報を直接読み解く技能が必要であり、実践的英語の基礎力を身に付ける。英語と日本語の発想・表現の違い、交渉の仕方の違いを知り、英語を自分なりに利用・応用する方法を学ぶ。
	経営者のための心理学 【2年次前期】	野田 稔 (明治大学専門職大学院 グローバル・ビジネス研究科教授) 浜田 正幸 (多摩大学経営情報学部教授) 河合 太介 (経営コンサルタント、 株式会社道(タオ)代表取締役)	農業従事者のモチベーションやキャリアを考え、適切に対処する知識と技術を習得する。また、地域社会のコンフリクトの解消や合意形成の際に働く集団心理的な力を理解し、コンフリクト解消から合意形成に至る技術を身に付ける。
リーダーシップ 【1年次後期】	古山 和宏 (公益財団法人松下政経塾塾頭)	リーダーに必要な資質を認識し、自らの経営を取り巻く人々からの信頼、協力を得られるような経営者を目指す。リーダー育成の専門家から必要となる普遍的な考え方や哲学を学び、実践的なリーダーシップを経営者の実績、経験から学ぶ。	

学群	科目	主な講師陣	概要
リーダーシップ	地域・農村のリーダーシップ 【2年次前期】	門間 敏幸 (東京農業大学国際食料情報学部教授) 鈴木 源太郎 (東京農業大学国際食料情報学部准教授)	農業経営者は、地域の持続的な発展の中に自らの経営を位置づけ、地域の農家とともに発展していく共生の思想が求められる。農村の先駆的リーダーの取り組み等から、地域・農村のリーダーシップの特質と特異性を明らかにする。
グローバル発想	日本農業史 【2年次前期】	坪井 伸広 (元筑波大学大学院 生命環境科学研究科教授)	幕末の開国とその後の西欧近代化にもかかわらず1950年代まで基本的に変わらなかった日本の食生活・農業・農村が、60年代以降急激に変貌した意味を、日本農業の歴史を学ぶことにより理解し、農業の未来を読み解くための視野を広げる。
	世界の食料と貿易 【2年次後期】	原 弘平((株)農林中金総合研究所常務取締役) 三石 誠司(宮城大学食産業学部教授) 木下 寛之 (元農林水産審議官、 元(独)農畜産業振興機構理事長) 佐藤 博(元米国全農組(株)筆頭副社長) 阮蔚(ルアン・ウェイ) (株)農林中金総合研究所主席研究員)	世界の食料事情は、途上国での食料不足と先進国での生産過剰という飢餓と飽食の並存構造にあり、現代の食料問題は貿易の視点を除いては考えられない。世界の食料事情と農産物貿易を学び、農業の未来を読み解くための視野を広げる。



指導者、経営者としての資質を磨く。

古山 和宏 公益財団法人松下政経塾塾頭

リーダーの資質として、まず大切なことは「人間を知ること」です。知識に振り回されず、現地現場に立脚し、人情の機微を理解しなければなりません。その上で、自分自身を磨き、私利私欲を超えて、経営の基本理念を確立することが求められます。本講座を通じて、皆さんが経営の要諦をつかむお手伝いができれば、幸いです。

特別講義、農業実習・企業実習

新たな出会いが、あなたと農業の可能性を広げる。

特別講義

淡路 和則 名古屋大学 准教授【シンポジウム】	石井 圭一 東北大学大学院 准教授【シンポジウム】	伊藤 幸蔵 株式会社米沢郷牧場 社長
浦野 光人 株式会社ニチレイ 相談役	江戸 龍太郎 エスピー食品株式会社 会長	合瀬 宏毅 NHK 解説主幹
大塚 明 前日本スーパーマーケット協会 専務理事	大西 茂志 JA全中 常務理事	長田 竜太 日本キヌカ株式会社 社長
小田 滋晃 京都大学大学院 教授	木内 博一 和郷園 代表理事	菊池 誠 大阪大学 教授
木之内 均 木之内農園 会長	小宮山 宏 プラチナ構想ネットワーク 会長、 三菱総合研究所 理事長、東京大学 総長顧問	近藤 修司 四画面思考研究所 代表取締役社長
澤登 早苗 恵泉女学園大学 教授	白石 好孝 白石農園 大泉風のがっこう	杉山 経昌 葡萄園スギヤマ
鈴木 厚志 京丸園株式会社 代表取締役	土門 秀樹 山形県遊佐町農家	広野 豊 有限会社広野牧場 代表取締役
日和佐 信子 雪印メグミルク株式会社	福永 庸明 イオンアグリ創造株式会社 社長	佛田 利弘 株式会社ぶった農産 社長
茂木 友三郎 キッコーマン株式会社 取締役名誉会長	本 昌康 株式会社ぶどうの木 社長	山崎 一之・洋子夫妻 おけら牧場
山下 秀俊 全国農協青年組織協議会 会長	山田 敏之 こと京都株式会社 代表取締役	農林水産省
片倉チッカリン株式会社	国際農業者交流協会	ダイキン工業株式会社
トキタ種苗株式会社	日清製粉グループ	三井不動産株式会社

※2014年5月までの実績による

農業実習

- 1年次に実施、4ヵ月。
- 先進的な農業経営体へ派遣。
- 派遣先では農業実習に加えて、経営者の同行実習や幹部ミーティング等への出席を通じ、経営者の仕事を学ぶとともに、当該経営体や地域のコア・コンピタンスを分析する。
- 行き先は学生側の希望を基に、個別に調整する。
- 研修受入可能先
(例) 霜里農場、株式会社野菜くらぶ、有限会社ぶどうばたけ、株式会社農業法人みずほ、農事組合法人サカタニ農産、株式会社伊賀の里モクモク手づくりファーム、農業生産法人有限会社福富農産、株式会社TKF、ほか多数。



企業実習

- 2年次に実施、3ヵ月。
- 農業に関連する企業を中心に、農業以外の企業で実習する。
(例) 食品メーカーの加工現場での実習、食品スーパーでの店頭販売の実習等。
- 講義で学ぶ経営やマーケティング等を企業の現場実習を通じて学ぶことを目的とする。
企業での実習を通じて農業の新たな価値・可能性と課題を発見し、卒業後の農業経営に向けて、自らのあり方を見極める。
- 行き先は学生側の希望を基に、AFJの会員企業を中心に個別調整。



本校の授業風景

授業風景

オールジャパンの講師陣による、最先端の理論や事例を講義。
グループワークや発表を通して、
みんなで考え、議論することで理解度を深めています。



視察

先進農業経営体を視察し、
知見を深めています。
1年次には先進農業経営体視察研修で
地方の農業経営体を視察。
学校行事では関東近郊の農産物直売所や
農家レストランを視察するなど、
リアルな農業経営に触れることができます。



ゼミ

4つのゼミでは領域横断的な
問題発見・問題解決能力を養成。
文献輪読やフィールドワークでの
学びと発見が、将来の農業経営の
策定に結びついています。



日本農業経営大学校スタッフ紹介

教員、サポートスタッフによる充実したサポート体制を実現。



専任講師 経営力担当

松尾 和典 まつお かずのり

学びたくても学ぶことのできない人達の方まで、しっかりと学んでください。よく学ぶことは、よく生きることです。みなさんたちの課題をいっしょに考えながら、お互いに、よりよい学びの時と場をつくっていきたくと思っています。そして、いっしょに未来を創造しましょう。

《経歴》 慶應義塾大学 大学院 政策・メディア研究科修士課程修了。慶應義塾大学 SFC研究所 上席所員(訪問)を経て、コンサルティング・ファームに参画。消費財から公共領域に至るまで、多数の業界における成長戦略や新規事業戦略の策定に携わり、現在に至る。



サポートスタッフ 企画部 主任

長谷川 圭 はせがわ けい

これからの農業経営者は経営力を磨く必要があります。時代の変化に伴い農業を取り巻く環境も大きく変わりつつある現在では、高品質な農産物を生産するだけでなく、経営者として様々な事を考え、着実に実行していく力が必要であると言えます。本校には農業経営者として必要な力を養う学びの場があります。是非本校でこれからの農業経営について共に考えていきましょう。

《経歴》 明治大学専門職大学院 グローバル・ビジネス研究科修了(MBA) 建設工学部卒業後、建築系エンジニアとして従事。監理技術者として難易度の高い現場を数多く手掛ける。その後、MBA進学を期に同職を退職し、2012年3月より現職。



専任講師 経営力・人間力担当

小野 史 おの ふみ

私は高校時代を新設校で過ごし、今はできたばかりのこの学校に携わっていますが、新しい学校には魅力的な人が集まると感じています。そして、学生にも職員にも、自分たちがこの学校を作る!という気概があります。どんなことでもチャレンジできる土壌があります。そんな環境で2年間学んだ経験は、きっと就農後もみなさんの大きな力となるはずですよ。

《経歴》 東京大学大学院 農業・資源経済学専攻 博士課程単位取得退学。(独)農研機構 中央農業総合研究センターにおいて、契約研究員として食料消費分野の研究に従事したのち、本校の専任講師となる。東京生まれ、宮城県育ち。



サポートスタッフ 業務部 主任

岡部 由美子 おかべ ゆみこ

情報もひとつも交差する東京を拠点に、全国や世界における食ビジネスの現状や、地域の特性を活かした農業の振興など、幅広く学べる2年間です。ここをひとつのプラットフォームとして、その先にある夢や目標の設定、実現に向けて、我々スタッフも全力でサポートして参ります。

《経歴》 ザ・ヒューマン(株)(現:ヒューマンアカデミー株式会社)でスクールカウンセラーとしてキャリアアップフォローを担当。平成15年に社団法人中央畜産会に入社し、畜産農家や支援者を対象にした研修事業のほか、畜産経営の支援・調査研究部門で、畜産環境保全、資源循環型農業、エコフィードに関する事業の企画・運営を担当した後、現職。



専任講師 農業力・人間力担当

小口 広太 おぐち こうた

世の中にはたくさんの仕事があります。みなさんはなぜ農業という仕事を選ぶのでしょうか。そもそもなぜ人間にとって、社会にとって、地域にとって農業は必要なのでしょうか。なかなか回答はでないと思いますが、この2年間で多彩な講師陣と議論し、また書物などで様々な考え方に触れながら、この問いとじっくり向き合ってください。

《経歴》 長野県生まれ。2006年明治学院大学国際学部卒業。2007年3月から1年間、埼玉県小川町で有機農業の住み込み研修を実施。2013年明治大学大学院農学研究科博士課程単位取得退学。専門は地域社会学、有機農業研究。



サポートスタッフ 業務部 竹村 淳 たけむら じゅん

近年、ビジネスとしての農業が注目されている状況において農業と経営について共に学べる本校の社会的意義は極めて高く、生徒の皆さんも産官学様々な分野から期待と注目がされています。共に頑張っていきましょう! 特には農業に対する投資熱が熱く、アグリビジネスで起業するならば今がチャンスです。本校では授業で事業計画を作りますし、仲間を探したり、ネットワークを構築するなど起業の準備にも最適な環境だと思えますので、多めに役立てて頂ければと思います。

《経歴》 慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 修士課程修了。ベンチャーキャピタルにて投資担当として従事する傍ら投資先のベンチャー企業にて新規事業開発業務に携わった後、MBAを取得し本校に参画する。



専任講師 社会力・人間力担当

前田 千尋 まえだ ちひろ

農業には多様な要素が関わっています。その中で、この学校では農業経営者として地域を牽引するリーダーとなるために必要なことを総合的に学ぶことができます。多くの学びと発見を得て、2年間を有意義に過ごしてほしいと思います。日本の農業を担うという強い意志をもつ人を私たちがサポートします。そして一生付き合える大切な仲間を見つけてください。

《経歴》 富山県出身。日本女子大学大学院家政学研究科生活経済専攻修了。地方自治体で普及指導員に従事し、農家の栽培指導・農産加工指導、就農支援を担当。その後経営構造対策事業や経営体育成支援事業、都市農業事業に携わる。



サポートスタッフ 教務部

佐藤 吉徳 さとう よしのり

私は専業農家の長男として生まれ、農林水産省の農業者大学校で農業を学びました。農業には「生き物」の生産を通じて喜びと苦しみの両面があります。農家子弟だからわかる。本格的に農業を学んだからわかる農業経営の奥深さと可能性を、学生の皆さんを様々な形でサポートしながら、共に追求していきたいと思っています。

《経歴》 青森県出身。普通高校を卒業後、農業者大学校で本格的に農業を学び始める。卒業後、一般企業に就職。その後、農業者教育への夢を実現すべく、スタッフとして一般社団法人アグリフューチャー・ジャパンに参画。

新校舎のご案内

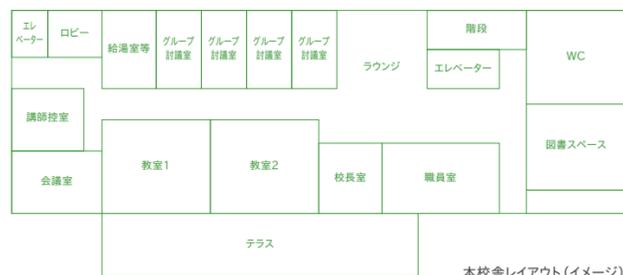
最新設備が導入された研修センターの1フロアを校舎として利用します。



校舎(農林中央金庫品川研修センター)

日本農業経営大学校が入居する校舎は、2014年2月に完成したばかりの新築の研修施設です。学生は2年間、全国から「情報」と「知」が集まる東京で農業経営を学びます。品川駅から徒歩圏内にあり、都内の移動にも便利です。

所在地:品川駅
徒歩12分



●教室

明るく落ち着いた雰囲気のある教室は、1学年20名が勉強に打ち込めるすっきりとしたレイアウト。最新式の設備機器を備え、少人数教育ならではの濃密な学びの場が提供されます。また、2教室をつなげる事で全学生が一同に学ぶ事が出来る大教室に変更可能です。

●ゼミ室

ゼミや卒業研究などを進める専用のゼミ室を完備。専門領域が異なる4名の担当教員が、学びを通じた学生の疑問や生活面等の不安に対してもサポートします。

●図書スペース

調べものがある場合はいつでも活用することができる図書スペースを完備。経営や農業等に関する3千冊以上の関連図書が所蔵されており、貸出しも可能です。

●ラウンジスペース

学生同士が集まり、研究テーマや授業の課題について議論できるフリースペースです。休み時間や昼食時等、ゆっくりと休憩もできます。

●テラス

広いオープンエアのテラスは、ラウンジスペースと共に休み時間や昼食時等、ゆっくりと休憩できるフリースペースです。5階からの眺望もあり、天気の良い日のリフレッシュや学生同士のディスカッションに最高の空間となっています。



共有設備

現代の学生ならではの設備も充実しています。

学生専用パソコン

ラウンジスペースには共用のパソコンが配置されています。授業や課題での各種調べ物や提出物の作成。また、ラウンジでのディスカッション時の情報収集等で利用可能です。

コピー機

学生が利用できるコピー機をラウンジスペースに配置。定められた規則に従って利用できます。



専用ロッカー

学生一人ひとりに専用のロッカーを用意。中にはコンセントが完備されており、ノートパソコンや携帯電話等の充電に利用出来ます。



無線LAN環境

本校専用の無線LANを完備しています。学生個人のノートパソコン等からのインターネット接続が可能です。

勉強する環境がここまで整っているなんて！新しい校舎で、気持ちも新たに一步踏み出せそうです。

第2期生
滝本 義久
石川県金沢市出身
元 農業生産法人勤務



寮のご案内

この2年間があるからこそ大きく羽ばたける。

日本農業経営大学校は、志の高い未来の農業経営者が集まる全寮制です。
2年間の集団生活を通じ、経営者に求められる自主性・自律性を養います。
日々議論を重ね、切磋琢磨し、多様な価値観を学んでください。



□所在地：

川崎市中原区 最寄り駅 武蔵中原駅

□通学時間：約50分

□居室：1人1部屋

□居室設備：

机、椅子、ベッド、収納スペース、エアコン、カーテン、電気スタンド、ゴミ箱、ベランダ(物干し台)

□共用施設：食堂、風呂、トイレ、談話室、調理設備(男女共用2カ所、女性専用1カ所)

□共用設備：洗濯機、衣類乾燥機、下駄箱、郵便受



食堂

食堂は学生全員の共用スペースです。
夜遅くまで談義が続き、
コミュニケーションの場となっています。



談話室

男女共用と女子専用の談話室があります。
調理設備と冷蔵庫を完備。
休日は料理なども楽しむことができます。



個室

個室には机やベッド、エアコン、
収納が完備され、
学習環境をサポートしています。

食事



朝食と夕食を提供し、食事面をサポート。
栄養バランスに配慮した
国産の食材を使用しています。



寮母さんが24時間常駐しているので安心。
生活の様々な面で献身的に
サポートをしてくれます。

サポート



洗濯機と洗面所を各階に完備。
衣類乾燥機もついていて便利です。

洗濯機
洗面所



一日の疲れを癒す広々とした大きなお風呂は、
学生にも人気。思いっきり足を伸ばせます。

風呂

女性でも安心して過ごせる寮です。
仲間と一緒にいる時間が
多いからこそ、夢や未来をじっくり
語り合えるのかもしれないね。



第2期生
若谷 のりこ
埼玉県さいたま市出身
大原簿記専門学校卒

学生の日

日本農業経営大学校の先輩たちの一日に密着。



〈第1期生〉
古庄 利康

熊本県菊池郡大津町出身 東海大学卒業

□ 今、私が学んでいること

私が目標にしている農業経営はお客様への直販100%です。その為には、生産者が価格決定権を持ち、農産物に誇りと責任を持たなければいけません。そこで、生産のための原価計算や、他の農産物とどう差別化して直販するかなど販売戦略を学んでいます。

□ 後輩へのメッセージ

この学校には、農業経営者になるという夢を持った仲間が全国から集まっています。しかし、目指している農業は十人十色で話をしていだけでもたくさんの発見があります。この学校は2年間でたくさんの人と出会い刺激し合い、自分が目指す経営と一生の仲間を作れる場所だと思います。



眠い目をこすりながら掃除へ。
今日は学生寮の敷地内をきれいに。



みんなでニュースをチェック。



武蔵中原駅までは自転車で移動。



みんなとおしゃべりしながら帰ります。



今日は学生自治会の総会。
会計担当としてみんなに報告。

私の一日

起床

06:15

今週は洗面所の掃除当番。
自分たちの寮は自分たちで清掃します。



朝食

06:30

同級生と一緒に食べています。

学生寮出発

07:45

みんなで歩いて武蔵中原駅へ。



駅のラッシュは大変だけど
これも勉強のひとつ!

品川駅到着

08:25
~30

校舎は駅から徒歩約10分。

電車と一緒に歩いた仲間と歩いて校舎へ。



学校到着

08:40

授業開始!

ここが私たちの
校舎です。

昼休み

11:45

午後の講義も気合いを入れて!

今日の講義は終了!

17:15

帰寮

18:30

管理人さんが笑顔で
迎えてくれます。

食事をとりつつ、
みんなで今日の講義の復習。



夢に向かっての授業だから、
真剣に楽しく学べます。

20:00

夜 手づくり餃子パーティー

【特別篇】

みんなで餃子をつくって食べる会です。おいしくできて、盛り上がりました。



〈第1期生〉
相原 美穂

宮城県仙台市出身 元 青果市場勤務

□ 1年間で変わったこと

今年度から新校舎に移り、いよいよ1年生も入学!本格的な学校生活が始まった感じがします。1年間、20名で学校生活や寮生活を送ってきて、やっとみんなを理解し始めたのではないのでしょうか。私は自分の夢がより具体化して、毎日一歩一歩、夢に向かって進んでいるって実感しています。

□ 後輩へのメッセージ

一人ひとり、入学前の経験や出身、そして農業の考え方も違います。だからこそ、とても刺激になりますし、理解しあい、力を合わせて何か行った時のパワーが未知数で楽しいです。ぜひ、農業の未来と一緒に考えましょう。

募集・受験について

2015年4月と2016年4月に入学する学生を同時に募集します。

あなたが日本の農業を変える1人になる

一般入試・推薦入試

募集対象者 ① 本校卒業後、自家又は農業生産法人等に就農・就職し、農業に従事することが確実と見込まれる者で、未来を切り拓く農業経営を志す者
② 農業法人の従業員

受験資格 ○ 高等学校を卒業した者、2015年3月卒業見込みの者又はこれに準ずると認められる者
○ 入学する年の4月1日時点で19歳以上40歳以下の者
○ 入学までには一定の農業従事・農業研修経験を課す

※自家が農業を営む者は原則3か月以上、それ以外の者は原則6か月以上
※高等学校卒業見込み者は1年程度
※道府県農業大学の卒業者又は卒業見込み者は、農業研修経験を充足している
※大学農学部の実習は、農業研修経験とみなし実日数で換算する
※農業研修は、作物の栽培、家畜の飼養等に関する内容が基本となるものの、農畜産物の加工・流通・販売等の他、農業者との交流、農業現場の実態調査、農家見学など、直接農業・農村の現場に触れる活動も含む

入学試験	出願期限	試験日	試験会場	試験の種類
I期日程試験	7月10日(木)	7月27日(日)	東京	一般入試
II期日程試験	9月11日(木)	9月28日(日)	東京	推薦入試
III期日程試験①	10月9日(木)	10月25日(土)・26日(日)	大阪・福岡	一般入試、推薦入試
III期日程試験②	11月13日(木)	11月30日(日)	東京	一般入試、推薦入試
IV期日程試験	1月29日(木)	2月15日(日)	東京	一般入試

試験の種類 一般入試：書類審査、面接 推薦入試：面接のみ

受験費用 5,000円

本校2年間で必要な主な費用	
入学金	なし
授業料	60万円/年 120万円<2年間>
寮費(朝・夕食あり)	100万円/年 200万円<2年間>
実習費用	選択する実習先により変動
合計	約320万円<2年間>

※その他：交通費・昼食代などが発生します。

助成金	
青年就農給付金(準備型)	150万円/年 300万円<2年間>

注：
①日本農業経営大学校は、全国型教育機関として認定されています。
②給付金の給付を希望する者は、給付金の事業実施主体に研修計画を提出し、承認を得る必要があります。
③給付金を受けた場合は、本校卒業後一定期間独立・自営就農又は雇用就農しないと給付金を返還しなければなりません。
④青年就農給付金事業については、要綱等を十分ご確認ください。

AO入試

募集対象者 既に自家又は農業法人の農業経営の主体を担っている者

受験資格 ① 大学を卒業した者又はこれに準ずると認められる者
② 入学する年の4月1日時点で40歳以下の者

募集人数 2名

入学年度 AO入試合格後、3年以内に入学することとし、入学年度は受験者が決定する

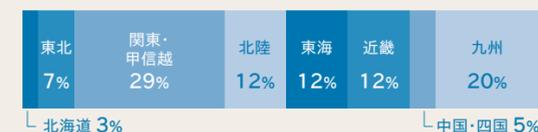
AO入試の特例 ① 授業料(年額60万円)は免除する
② 自らが主体となっている農業経営から離れることを考慮し、より実践的な教育が受けられるよう、教育プログラムについては個人ごとに対応する
(1年次の先進農業経営体派遣実習、2年次の企業派遣実習を自家(農業法人)での農業経営に充当するなど。)

2014年度 学生の属性

第1・2期生:41名

年齢や経験等、様々なバックグラウンドを持つ学生が、全国から集っています。

出身地域



農家・非農家



入学時の年齢



最終学歴



男女比



入学前の職業



よくある質問

Q1 | 日本農業経営大学校とアグリフューチャー・ジャパンはどのような関係ですか？

A1 | 日本農業経営大学校は、一般社団法人アグリフューチャー・ジャパンが運営する学校です。文部科学省が所管する学校法人とは異なりますが、その分農業経営者育成に特化した、フレキシブルかつ大胆な教育に取り組めます。

Q2 | 日本農業経営大学校を卒業することで、何らかの学位を得ることはできますか？

A2 | 本校は学校法人ではないため学位は得られませんが、本校を卒業すること自体が学位以上の価値を生み出せる、そのような学校を築いていきます。

Q3 | 高校卒業見込み者（高校3年生）ですが、受験することはできますか？

A3 | 高校卒業見込み者も受験できます。ただし、合格者は約1年間、先進的な農業経営体等での実習に取り組んでいただきます。従いまして、高校卒業見込み者については、実質的に3年間のカリキュラムとなります。

Q4 | 農業未経験者ですが、農業研修先は斡旋してくれますか？

A4 | まずは、全国新規就農相談センターが行っている農業インターンシップを利用して、1~2週間の農業研修をお勧めします。その後、さらに期間を延ばして農業研修を行うとよいでしょう。本校の入学試験に合格した方については、農業研修先を紹介します。

Q5 | 卒業後のフォローアップ体制はどうなっていますか？

A5 | 卒業後もフォローアップ研修や通信講座、さらには同窓会の設置等、様々な観点で農業経営の実践をサポートします。また、新規就農希望者に対しても、会員等の幅広いネットワークを活用した就農サポートに取り組めます。

Q6 | 他の農業者教育機関にはない、本校の強みは何ですか？

A6 | 「経営力」「農業力」「社会力」及び「人間力」という、農業経営者に必要な能力をバランスよく育むことができます。また、全国レベルで農業を実践する仲間を持つこと、農業界・産業界・学界・行政等に幅広いネットワークを構築できることも大きな強みであると考えています。

あなたの一步を、たくさんの人が応援している

私たちは、一般社団法人アグリフューチャー・ジャパンを応援しています。

正会員

アサヒグループホールディングス株式会社	味の素株式会社	イオンアグリ創造株式会社
イズミヤ株式会社	エスピー食品株式会社	株式会社関西スーパーマーケット
キッコーマン食品株式会社	キュービー株式会社	株式会社極洋
サッポロホールディングス株式会社	株式会社J-オイルミルズ	昭和産業株式会社
スターゼン株式会社	宝ホールディングス株式会社	株式会社ニチレイ
日清オイログループ株式会社	株式会社日清製粉グループ本社	日本水産株式会社
日本製粉株式会社	日本ハム株式会社	日本デルモンテ株式会社
ハウス食品グループ本社株式会社	株式会社パロー	株式会社阪食
プリマハム株式会社	丸大食品株式会社	マルハニチロ株式会社
株式会社明治	森永乳業株式会社	株式会社ヤオコー
株式会社ヤクルト本社	山崎製パン株式会社	雪印メグミルク株式会社
横浜冷凍株式会社	株式会社ライフコーポレーション	
公益社団法人日本農業法人協会	農業者大学校同窓会	全国農業協同組合中央会
全国農業協同組合連合会	全国共済農業協同組合連合会	農林中央金庫
全国農業会議所	公益社団法人大日本農会	特定非営利活動法人全国有機農業推進協議会
金子 美登	佛田 利弘	株式会社野菜くらぶ
農事組合法人 和郷園	特定非営利活動法人日本GAP協会	一般社団法人日本食農連携機構
株式会社農林中金総合研究所		
生活クラブ事業連合生活協同組合連合会	日本生活協同組合連合会	パルシステム生活協同組合連合会
一般社団法人日本フードサービス協会		

賛助会員

伊藤忠商事株式会社	オリックス株式会社	住友商事株式会社	豊田通商株式会社	丸紅株式会社
三井物産株式会社	三菱商事株式会社	株式会社アサツ ディ・ケイ	井関農機株式会社	王子ホールディングス株式会社
株式会社クボタ	ゴールドバック株式会社	清水建設株式会社	住友化学株式会社	双日株式会社
ダイキン工業株式会社	株式会社電通	富士急行株式会社	三井不動産株式会社	三菱地所株式会社
ヤンマー株式会社	レンゴー株式会社	株式会社アインファーマシーズ	岩谷産業株式会社	宇部興産株式会社
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	NTN株式会社	科研製菓株式会社	兼松株式会社	昭和電工株式会社
神栄株式会社	新日鉄興和不動産株式会社	住友不動産株式会社	総合警備保障株式会社	大建工業株式会社
大成建設株式会社	大陽日酸株式会社	大和製罐株式会社	ダイワボウホールディングス株式会社	東京急行電鉄株式会社
トヨタホーム株式会社	日東ベスト株式会社	日本通運株式会社	日本ユニシス株式会社	野村不動産株式会社
不二製油株式会社	フジバングループ本社株式会社	プライスウォーターハウスコーパース株式会社	北越紀州製紙株式会社	ホクサンホールディングス株式会社
三井倉庫株式会社	株式会社やまびこ	朝日工業株式会社	日野自動車株式会社	出光興産株式会社
イハラケミカル工業株式会社	株式会社インフォメーション・ディベロプメント	沖電気工業株式会社	片倉工業株式会社	協同乳業株式会社
協友アグリ株式会社	クミアイ化学工業株式会社	京浜急行電鉄株式会社	コープケミカル株式会社	正栄食品工業株式会社
すてきなイスグループ株式会社	株式会社西武ホールディングス	積水化学工業株式会社	積水ハウス株式会社	セントラル硝子株式会社
中越パルプ工業株式会社	株式会社なとり	日産化学工業株式会社	日本電気株式会社	日本アイ・ピー・エム株式会社
日本オラル株式会社	日本曹達株式会社	日本甜菜製糖株式会社	日本農業株式会社	はごろもフーズ株式会社
株式会社日立製作所	ヒューリック株式会社	富士通株式会社	北興化学工業株式会社	ボソー油脂株式会社
株式会社丸山製作所	三菱総研DCS株式会社	株式会社三菱総合研究所	ミヨシ油脂株式会社	三菱UFJリース株式会社
名糖運輸株式会社	SBSフレック株式会社	SBSホールディングス株式会社	三菱重工株式会社	三菱電機株式会社
株式会社朝日工業社	株式会社ADEKA	株式会社アミノアップ化学	石原産業株式会社	株式会社岩手朝日テレビ
エム・アイ・コンサルティンググループ株式会社	塩水港精糖株式会社	株式会社ウッドワン	片倉チッカリン株式会社	株式会社カナカ
木徳神糧株式会社	協同飼料株式会社	クリナップ株式会社	月桂冠株式会社	ケンコーマヨネーズ株式会社
サンケイ化学株式会社	三和倉庫株式会社	JA三井リース株式会社	JNC株式会社	シヤ精機株式会社
昭和バックス株式会社	株式会社白子	新日本有限責任監査法人	株式会社商船三井	住友コム工業株式会社
住友林業株式会社	株式会社精工	センコー株式会社	大王製紙株式会社	太子食品工業株式会社
高梨乳業株式会社	千葉製粉株式会社	東京定温冷蔵株式会社	東京産業貿易株式会社	東京豊海冷蔵株式会社
東ソー株式会社	東洋精糖株式会社	東洋紡株式会社	東京センチュリーリース株式会社	鳥越製粉株式会社
株式会社永谷園	日建リース工業株式会社	株式会社日新	日本カーバイド工業株式会社	日本食品化工株式会社
日本化薬株式会社	日本スーパーマーケット協会	ヤマエ久野株式会社	株式会社浜乙女	株式会社ヒューテック/オリオン
芙蓉総合リース株式会社	株式会社ベシア	北海道糖業株式会社	ホクサン株式会社	保土谷化学工業株式会社
株式会社マルイチ産商	丸善食品工業株式会社	株式会社ミキモト	三井住友ファイナンス&リース株式会社	株式会社三菱ケミカルホールディングス
宮坂香料株式会社	株式会社ヤマクネ	ヤマエ久野株式会社	雪印種苗株式会社	株式会社吉野家ホールディングス
ラサ工業株式会社	理研ビタミン株式会社	日本農産工業株式会社	旭化成株式会社	市岡製菓株式会社
伊藤忠アーバンコミュニティ株式会社	伊藤忠飼料株式会社	株式会社荏原製作所	株式会社オレンジページ	株式会社京成ストア
ケイヒン株式会社	幸南食糧株式会社	国分株式会社	サミット株式会社	一般社団法人JAB試験所協議会
公益財団法人全国学校農場協会	ジェイカムアグリ株式会社	株式会社JTBコーポレートセールス	信越化学工業株式会社	新生紙バルブ商事株式会社
ソリマチ株式会社	TPR株式会社	株式会社東武百貨店	トキタ種苗株式会社	豊玉香料株式会社
南西糖業株式会社	日揮株式会社	日清丸紅飼料株式会社	日東富士製粉株式会社	日本合成化学工業株式会社
日本酒類販売株式会社	藤田観光株式会社	三井化学株式会社	三菱瓦斯化学株式会社	わらべや日洋株式会社

※2014年4月30日現在
一般社団法人アグリフューチャー・ジャパンが、「日本農業経営大学校」を運営しています。